

令和6年度 学校教育自己診断の結果および分析・考察について

1. 診断結果について

(1) アンケート回収状況

学年(生徒数)	回答数		
	生徒(回収率)	保護者(回収率)	教員
1年(33)	32(97%)	73(79%)	26(79%)
2年(30)	26(87%)		22(73%)
3年(29)	27(93%)		25(86%)
共生(16)	13(81%)	5(31%)	37(90%)

(2) 診断結果(別紙資料)について

資料① 生徒(むらの・全学年)
 資料② 生徒(むらの 8期生_3年生)
 資料③ 生徒(むらの 9期生_2年生)
 資料④ 生徒(むらの 10期生_1年生)
 資料⑤ 保護者(むらの)
 資料⑥ 教員(むらの)
 資料⑦ 生徒(共生)
 資料⑧ 保護者(共生)

- 肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる
 ②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない
 ④あてはまらない
- 前年比±10以上の項目に矢印(↗)で表記
- 参考として、前年度の肯定率を記載
- 左下に<分析・考察>を表記

2. 診断結果の分析・考察方法について

(1) 分析、考察のポイント

以下の2点を中心に分析する

- 10以上の増減があった項目について
- 肯定的な結果が70%未満の項目について
- その他 / ★学校経営計画に関わる項目について

(2) 分析、考察の方法

・分析結果を管理職、教職員に共有し、意見集約を行ったうえで学校評価委員会が取りまとめる。

(3) 分析・考察

<アンケートの回収率について>

- 生徒については、むらの・共生とも各学年で実施日を設定して一斉に実施した。
 →長欠などの事情によりアンケート回答が困難な生徒を除いて、ほぼ全員回収できた。
- 教員については、昨年度の100%の継続・維持をめざしたが、90%に下がる結果となった。
 回答の有無や内容を確認しない形式に変更し、各教員の自主性に期待したが、送信ミスも含め数名(10%)が未回答に終わった。次年度は、回答を業務の一環として捉える意識を高めつつ、回答送信の有無が確認できる形式を検討する。
- 保護者については、R3:78%→R4:96%→R5:84%→R6:73%という結果となった。
 - ・昨年度同様、「実施のお願いプリント」にGoogleフォームの回答状況(家庭数)を把握する固有のQRコードを付けた。また、「回答済連絡票」を提出いただき、家庭別にも回答状況を把握しながら未提出の家庭には連絡帳を通じて再度協力依頼を行った。
 - ・「操作手順プリント」としてGoogleフォームの回答方法を図解でわかりやすく示した。
 - ・生徒同様の事情によりアンケートの回答が難しい家庭が昨年度より増えたことや、保護者の学校への関心や参画意識が少し低下傾向にあるのではないかと推測する。

<所属、項目ごとの分析・考察について>

→資料①～⑧参照:令和6年度学校教育自己診断 診断結果および分析・考察について

回答数 85

設問	生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比（±10）		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	学校へ行くのが楽しい。	30	34	17	4	0	75.3%	24.7%	-	-8.6	83.9%		
2	本校の行事は楽しい。（学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など）	46	32	7	0	0	91.8%	8.2%	-	1	90.8%		★91%以上を維持[91%]
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	38	41	5	1	0	92.9%	7.1%	↑	10.2	82.8%		各学年における進路学習や実習、進路指導などの取り組みが、生徒に理解できる形でより充実してきているのではないかと、また、MURANOキャリアプランに基づいた学習や進路指導を教員間でも再確認した。
4	先生は、自分のことをよく理解してくれている。	42	32	9	2	0	87.1%	12.9%	-	-2.6	89.7%		
5	相談できる先生がいる。	45	31	7	2	0	89.4%	10.6%	-	4.4	85.1%		
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	47	34	4	0	0	95.3%	4.7%	-	4.5	90.8%		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	49	28	5	3	0	90.6%	9.4%	-	2.1	88.5%		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	52	27	6	0	0	92.9%	7.1%	-	2.1	90.8%		
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	63	21	1	0	0	98.8%	1.2%	-	3.4	95.4%		
10	自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	41	32	11	1	0	85.9%	14.1%	-	3.1	82.8%		★85%[83%]
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	62	22	1	0	0	98.8%	1.2%	-	4.6	94.3%		
12	本校には達成感を味わうことができる活動がある。（職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど）	53	27	4	1	0	94.1%	5.9%	-	-0.1	94.3%		★94%以上を維持[94%]
13	先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	53	28	2	2	0	95.3%	4.7%	-	-0.1	95.4%		★97%[95%]
14	先生は授業や行事でタブレット端末を使って、わかりやすい学習をしてくれている。	61	23	0	1	0	98.8%	1.2%	-	5.7	93.1%		★93%以上を維持[93%]

- ・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
- ・前年度比±10%以上の項目に矢印（↑）を表記
- ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

- ・以下の点を中心に分析・考察
- I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
- II 肯定率が70%未満の項目について
- III その他

〈分析・考察〉

- I 増：項目3 減：該当なし
- II 該当なし
- III 全体について
- ・全体的に肯定率は高く、日々の取り組みの成果が一定現れている。次年度もこの水準を維持しつつ、肯定率が80%以下の項目を中心に引き続き日々の取り組みに尽力していきたい。
- ・項目1については、70%は超えているが、前年度比8.6%減という結果になっている。必須項目である「学校へ行くのが楽しい」の解釈（質問としての読み取り方）については、以前から質問項目としての妥当性にも疑問の声が上がっており、分析や考察の難しさがある。
- ・生徒と教員の関係性に関わる項目4、5、7については、少数ではあるが否定的な回答があるということを受止め、今後も注意深く指導・支援していきたい。

回答数 27

設問	生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	学校へ行くのが楽しい。	8	11	7	1	0	70.4%	29.6%	↓	-14	84.4%		就労に向けた指導機会は明らかに増えているため減は妥当である。生徒自身も成長し、大人になっているため楽しさよりも自分の進路と向き合うことに重点を置いていると考える。
2	本校の行事は楽しい。(学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など)	12	13	2	0	0	92.6%	7.4%	-	2	90.6%		★91%以上を維持[91%]
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	15	10	2	0	0	92.6%	7.4%	-	2	90.6%		
4	先生は、自分のことをよく理解してくれている。	10	11	5	1	0	77.8%	22.2%	↓	-12.8	90.6%		校内の生徒指導だけでなく、外部機関と連携のうえで指導・支援していただくケースもあった。そのことがアンケート結果に反映されていると思われる。
5	相談できる先生がいる。	11	12	3	1	0	85.2%	14.8%	-	-2.3	87.5%		
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	13	13	1	0	0	96.3%	3.7%	-	5.7	90.6%		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	12	11	2	2	0	85.2%	14.8%	-	-5.4	90.6%		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	12	11	4	0	0	85.2%	14.8%	↓	-11.7	96.9%		校内の生徒指導だけでなく、外部機関と連携のうえで指導・支援していただくケースもあった。そのことがアンケート結果に反映されていると思われる。
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	18	9	0	0	0	100.0%	0.0%	-	0	100.0%		
10	自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	10	13	4	0	0	85.2%	14.8%	↑	19.6	65.6%		★85%[83%] 支援教育部、各学年C0を配置し、各学年会においても個支計・指導計画の目標を確認するように発信した。各授業内でも目標を簡潔に伝えるようにした。(支援教育部)
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	17	10	0	0	0	100.0%	0.0%	-	6.3	93.8%		
12	本校には達成感を味わうことができる活動がある。(職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど)	15	12	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	12.5	87.5%		★94%以上を維持[94%] 高校生活が最後であるため行事についても楽しむように伝えている。
13	先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	15	11	0	1	0	96.3%	3.7%	-	-0.6	96.9%		★97%[95%]
14	先生は授業や行事でタブレット端末を使って、わかりやすい学習をしてくれている。	18	9	0	0	0	100.0%	0.0%	-	0	100.0%		★93%以上を維持[93%]

・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない

・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記

・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

・以下の点を中心に分析・考察
I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
II 肯定率が70%未満の項目について
III その他

〈分析・考察〉
① 増：項目10、12 減：項目1、4、8
② 該当なし
③ 全体として
全体的に肯定率が高く、項目9、11、12、14においては100%の結果が得られている。年度当初に生徒に向けて非常に大変な一年になることは伝えており、全員が実習や履歴書、面接練習など非常に時間をかけて取り組んでいる。一方高校生活が最後であるため行事についても楽しむように伝えている。そのため想定通りのアンケート回答であると感じている。進路が落ち着く年明けには生徒のカフェ利用や、生徒の自主性に任せた校外学習などを予定しており、最後の高校生活を楽しんでほしいと思っている。

回答数 26

設問	生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比（±10）		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	学校へ行くのが楽しい。	11	10	4	1	0	80.8%	19.2%	-	-8.5	89.3%		
2	本校の行事は楽しい。（学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など）	15	8	3	0	0	88.5%	11.5%	-	-4.4	92.9%		★91%以上を維持[91%]
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	10	13	2	1	0	88.5%	11.5%	↑	13.5	75.0%		学年進行に伴い、LHRや学年集会での進路学習に加え、担任による個別の進路指導に取り組むなど、学年としての努力を積み重ねた結果、生徒たちにも意識が浸透して肯定的な意見が増えたものと考えられる。
4	先生は、自分のことをよく理解してくれている。	13	11	1	1	0	92.3%	7.7%	-	6.6	85.7%		
5	相談できる先生がいる。	13	11	2	0	0	92.3%	7.7%	-	6.6	85.7%		
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	18	6	2	0	0	92.3%	7.7%	-	-0.5	92.9%		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	15	10	1	0	0	96.2%	3.8%	-	3.3	92.9%		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	18	7	1	0	0	96.2%	3.8%	-	3.3	92.9%		
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	24	2	0	0	0	100.0%	0.0%	-	3.6	96.4%		
10	自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	14	7	5	0	0	80.8%	19.2%	-	9.3	71.4%		★85%[83%]
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	23	3	0	0	0	100.0%	0.0%	-	7.1	92.9%		
12	本校には達成感を味わうことができる活動がある。（職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど）	19	6	1	0	0	96.2%	3.8%	-	3.3	92.9%		★94%以上を維持[94%]
13	先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	18	8	0	0	0	100.0%	0.0%	-	7.1	92.9%		★97%[95%]
14	先生は授業や行事でタブレット端末を使って、わかりやすい学習をしてくれている。	21	5	0	0	0	100.0%	0.0%	-	7.1	92.9%		★93%以上を維持[93%]

- ・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
- ・前年度比±10%以上の項目に矢印（↑）を表記
- ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他

〈分析・考察〉
 ① 増：項目3 減：該当なし
 ② 該当なし
 ③ 全体として
 全体的に肯定率が高く、項目9、11、13、14においては100%の結果が得られている。前年比で一番下がった項目1については、後期職場実習明けのアンケート回答であったことや、学年進行に伴い学習や進路に関する課題の把握、意識が高まっていることが、学校生活は楽しいだけではないという数値結果に反映しているのではないかと捉えている。また、様々な人間関係を築いていく中での葛藤から成長につながっている側面もある。この水準を維持しつつ、次年度の最終学年の指導・支援においても、各生徒に適切に寄り添う取組みを探っていききたい。

回答数 32

設問	生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比（±10）		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	学校へ行くのが楽しい。	11	13	6	2	0	75.0%	25.0%	-	-	-		
2	本校の行事は楽しい。（学校祭、校外学習、宿泊研修、スマイル&ミュージック、ミニ体育祭など）	19	11	2	0	0	93.8%	6.3%	-	-	-		★91%以上を維持[91%]
3	将来の進路や生き方について考える時間がある。	13	18	1	0	0	96.9%	3.1%	-	-	-		
4	先生は、自分のことをよく理解してくれている。	19	10	3	0	0	90.6%	9.4%	-	-	-		
5	相談できる先生がいる。	21	8	2	1	0	90.6%	9.4%	-	-	-		
6	学校生活についての先生の指導は理解できる。	16	15	1	0	0	96.9%	3.1%	-	-	-		
7	先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	22	7	2	1	0	90.6%	9.4%	-	-	-		
8	先生は私たちのことを考えてくれている。	22	9	1	0	0	96.9%	3.1%	-	-	-		
9	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	21	10	1	0	0	96.9%	3.1%	-	-	-		
10	自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。	17	12	2	1	0	90.6%	9.4%	-	-	-		★85%[83%]
11	地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	22	9	1	0	0	96.9%	3.1%	-	-	-		
12	本校には達成感を味わうことができる活動がある。（職場実習、オープンスクール、学校祭、スマイル&ミュージックなど）	19	9	3	1	0	87.5%	12.5%	-	-	-		★94%以上を維持[94%]
13	先生は、将来の進路や職業について自分に合ったアドバイスをくれる。	20	9	2	1	0	90.6%	9.4%	-	-	-		★97%[95%]
14	先生は授業や行事でタブレット端末を使って、わかりやすい学習をしてくれている。	22	9	0	1	0	96.9%	3.1%	-	-	-		★93%以上を維持[93%]

- ・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
- ・前年度比±10%以上の項目に矢印（↗）を表記
- ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

- ・以下の点を中心に分析・考察
I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
II 肯定率が70%未満の項目について
III その他

〈分析・考察〉

- ① 昨年度と比較できないため該当なし
- ② 該当なし
- ③ 全体として

・全体的に肯定率が高い。項目1においては、例年と比べると肯定率が少し低いが、アンケート回答の実施日が初めての職場実習を終え、お礼状などの事後学習に取り組んだ時期と重なっていたことも少なからず影響しているのではないかと推察している。年間を通して生徒の様子を見るかぎり、「学校へ行くのが楽しい」と感じる生徒が数値結果ほど低いとは捉えていないが、今後の経過を注意深く見守っていきたい。

回答数 73

設問	保護者	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比（±10）		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	30	33	8	2	0	86.3%	13.7%	-	0.2	86.1%		
2	子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。	26	39	7	1	0	89.0%	11.0%	-	-0.8	89.9%		
3	学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	52	20	1	0	0	98.6%	1.4%	-	1.2	97.5%		★98%以上を維持[98%]
4	学校は、子どもの障がいについて、よく理解している。	45	21	4	3	0	90.4%	9.6%	-	-2	92.4%		
5	学校の生徒指導の方針に共感できる。	40	28	3	2	0	93.2%	6.8%	-	-1.8	94.9%		
6	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	50	20	3	0	0	95.9%	4.1%	-	1.0	94.9%		
7	学校は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している。	43	24	5	1	0	91.8%	8.2%	-	0.6	91.1%		
8	学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	54	18	1	0	0	98.6%	1.4%	-	1.2	97.5%		
9	学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	58	12	2	1	0	95.9%	4.1%	-	8.5	87.3%		
10	学校は、教育情報について提供の努力をしている。	50	21	2	0	0	97.3%	2.7%	-	3.6	93.7%		

- ・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
- ・前年度比±10%以上の項目に矢印（↑）を表記
- ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

- ・以下の点を中心に分析・考察
- I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
- II 肯定率が70%未満の項目について
- III その他

〈分析・考察〉

- I 該当なし
- II 該当なし
- III 全体について
- ・全体的に肯定率は高い数値を維持している。本校の教育活動へのご理解をいただけているとともに、生徒たちの日々の学校生活における成長を実感いただけているのではないかと考える。
- ・一方で回答率が二年連続、下がってきていることには危惧している。従来から、各生徒の就労に向けた学習や進路指導等の充実には保護者との連携は欠かせないものである。保護者の日常的な教育活動への興味関心や参画意識を維持もしくは高めていけるよう検討し、工夫を考えていきたい。

回答数 37

設問	教員	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比 (±10)		前年度肯定<参考>	備考
1	本校では、学校祭・校外学習・宿泊研修などの学校行事は、生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫を行っている。	25	11	1	0	0	97.3%	2.7%	-	-2.7	100.0%	
2	私は、生徒の特性や実態をふまえ教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている。	19	10	7	0	1	78.4%	18.9%	↓	-14.1	92.5%	各会議の運用方法を変更した結果、教科会や専門、共通などの会議が各担当によるフレキシブルな設定になったことなどが影響しているのではないかと捉えている。
3	私は、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている。	22	13	1	0	1	94.6%	2.7%	-	-0.4	95.0%	★95%以上を維持[95%]
4	本校では、生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	20	16	1	0	0	97.3%	2.7%	-	7.3	90.0%	
5	私は、カウンセリングマインドをもって生徒の相談に快く応じている。	26	9	2	0	0	94.6%	5.4%	-	2.1	92.5%	
6	本校では、いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	24	12	1	0	0	97.3%	2.7%	-	4.8	92.5%	★95%[93%]
7	本校では、生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている。	14	17	6	0	0	83.8%	16.2%	-	-8.7	92.5%	
8	教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、支援教育部を中心とする現行の体制は役立っている。	19	17	0	0	1	97.3%	0.0%	↑	14.8	82.5%	支援教育部を立ち上げ、課題改善に努めた。
9	本校では、外部への情報提供の手段として学校のホームページが活用されている。	10	22	4	1	0	86.5%	13.5%	-	-3.5	90.0%	
10	本校は、教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている。	16	18	3	0	0	91.9%	8.1%	-	-0.6	92.5%	
11	本校では、初任者を含む教職経験1~2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている。	7	23	7	0	0	81.1%	18.9%	↑	16.1	65.0%	★75%[65%] 様々な場面で、初任者への指導、助言が実践できていた。キャリアの深浅を考慮した2人担任制や全教員での相互サポートの方針などが功を奏したのかもかもしれない。
12	本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画にいかしている。	12	22	3	0	0	91.9%	8.1%	-	4.4	87.5%	

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(↑)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減(肯定率)があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他

〈分析・考察〉
 I 増:項目8、11 減:項目2
 II 該当なし
 III 全体について
 ・全体的に肯定率は高い。昨年度の課題であった項目8、11については、大きく改善できた。具体的な改善策としては支援教育部(学年Coなどの設定)を立ち上げるなど組織体制を見直したことや、初任者等に関わらず、すべての教員を対象とした専門性向上のための研修などに取り組んだことがあげられる。また「個々の生徒に応じた進路選択についてのきめ細かい指導」の項目についても97.3%と大幅に増となっており、MURANOキャリアプランなどの再認識に力を注いだことが結果につながったのではないかと捉えている。
 ・項目2の大幅な減については、定例会議の設定を減らし、各部署でのフレキシブルな運用に切り替えたことの負の側面が反映されたのではないかと分析している。効果が上がっている面も多くあり、今後さらに運用の精度を上げる検討、工夫をしていきたい。
 ・項目7については、各教員の指導感やスタイルなどを尊重しながらも職場集団として十分な意見交換を継続していく必要があると捉えている。
 ・回答率が90%に下がった。回答を業務の一環として捉える意識を再確認しつつ、回答送信の有無が確認できる形式を検討していく。

回答数 13

設問	共生生徒	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比(±10)	前年度肯定<参考>	備考一昨年度肯定<参考>	検証
1	火曜日に「むらの」へ行くのが楽しい。	3	2	4	4	0	38.5%	61.5%	↓ -44.9	83.3%	46.7%	人混み（電車通学）や大きな音が苦手な生徒が増えたことが大きい。共生推進教室の趣旨である集団での交流を楽しみにしている生徒にとっては週1日設置校を抜けてむらのの職業に関する学習は楽しみに感じるものではないと考えられる。
2	「むらの」の行事は楽しい。 (校外学習、ミニ体育祭など)	3	5	4	1	0	61.5%	38.5%	↓ -38.5	100.0%	60.0%	設置校の1校は大集団より共生のメンバーでいる方が落ち着く生徒が多いと話しており、今年は顕著に数値に影響が出ている。行事が全学年でミニ体育祭、1年は校外学習しかないことも原因と考える。
3	「むらの」では、将来の進路や生き方について考える時間がある。	3	5	5	0	0	61.5%	38.5%	↓ -21.8	83.3%	53.3%	具体的に明確に将来の進路や生き方を考える時間がとることができていないために数値が下がっているかと考えられる。
4	「むらの」の先生は、自分のことをよく理解してくれている。	4	3	5	0	1	53.8%	38.5%	↓ -37.8	91.7%	73.3%	設置校の先生も登校しており、むらのの教員よりも設置校の先生と話す機会が多いことが考えられる。
5	「むらの」には、相談できる先生がいる。	3	3	5	2	0	46.2%	53.8%	↓ -45.5	91.7%	73.3%	昨年度と比べて今年度は登校しても設置校の先生との関わりを持つとする生徒が多い。週1日の当校では相談できるような関係を作るのは難しいのではないかと考えられる。
6	学校生活について「むらの」の先生の指導は理解できる。	4	5	3	1	0	69.2%	30.8%	↓ -22.4	91.7%	73.3%	本校に登校したときの指導と設置校での指導が違うことを理解し、納得している生徒が少ないことが考えられる。
7	「むらの」の先生はいじめなどのいろいろな問題を見逃さず考えてくれる。	6	3	0	3	1	69.2%	23.1%	↓ -22.4	91.7%	80.0%	いじめのような大きな問題がないことが数値に影響しているのではないと考えられる。
8	「むらの」の先生は私たちのことを考えてくれている。	5	5	2	0	1	76.9%	15.4%	↓ -14.7	91.7%	86.7%	私たちのことを考えている認識が生徒とむらのの教員との差があることが多いと考えられる。就労の学習が私たちのためと認識してもらう必要がある。
9	「むらの」では、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	3	8	2	0	0	84.6%	15.4%	- -7.1	91.7%	66.7%	
10	「むらの」での自分の個別の指導計画の目標を知っている。	2	6	3	2	0	61.5%	38.5%	↓ -30.1	91.7%	80.0%	個別の指導計画について知らない生徒が多いのではないかと考えられる。本校で渡すときや設置校でも逐一渡すときに説明する必要がある。
11	「むらの」では地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学ぶ機会がある。	5	6	2	0	0	84.6%	15.4%	↓ -15.4	100.0%	86.7%	1年生は地震や火災の避難訓練を受けていないことが影響しているのではないかと考える。

・肯定率の高い順で表記
 肯定…①あてはまる、 ②ややあてはまる
 否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
 ・前年度比±10%以上の項目に矢印(ハ)を表記
 ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】
 ・以下の点を中心に分析・考察
 I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
 II 肯定率が70%未満の項目について
 III その他
 <分析・考察>
 ① 減：項目1、2、3、4、5、6、7、8、10、11
 ② 項目1、2、3、4、5、6、7、10
 ③全体として
 ・ほぼすべての項目が大幅に前年比減となっている。ただし、もともと生徒の母数が少なく、少数者の回答内容によって全体の肯定率が大きく増減してしまう傾向にあり、その年度の生徒の実態にも大きく左右するなど、統計数値としてどのように受け止め分析、考察するのが非常に難しい。
 ・共生生徒のスクーリングの在り方や設置校との連携については、府内高等支援学校の大きな枠組みとしても難しさを感じている。そのような状況下で本校なりに、どのように考え、実践していくのかを試行錯誤し、担当者を中心に尽力している。引き続き、スクーリングの在り方や本校生徒との交流（共に学ぶ）について考えていきたい。
 ・共生設置校での実施と重複しているという見方もあり、共生の自己診断実施の有効性や在り方について検討して行く必要があるのではないかと考えている。
 ・今年度は、生徒の実態もあり、スクーリングの出席率が下がっている。

回答数 5

設問	共生保護者	①	②	③	④	無回答	肯定	否定	前年比（±10）		前年度肯定<参考>	備考	検証
1	子どもは「むらの」へ行くのを楽しみにしている。	1	1	2	1	0	40.0%	60.0%	-	0	40.0%		
2	「むらの」の校外学習などの学校行事は、子どもにとって魅力あるものになっている。	0	1	2	2	0	20.0%	80.0%	↓	-60	80.0%		人混み（むらのへの電車通学）や大きな音が苦手な生徒たちの保護者が学校行事の様子を知っていることが影響しているのではないかと考えられる。
3	子どもは「むらの」の授業がわかりやすく楽しいと言っている。	1	2	2	0	0	60.0%	40.0%	-	0.0	60.0%		
4	「むらの」の生徒指導の方針に共感できる。	1	3	0	0	1	80.0%	0.0%	↑	10	70.0%		就労に向けての本校の指導を理解してきた保護者が増えたことが考えられる。
5	「むらの」は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	1	2	1	1	0	60.0%	40.0%	↓	-40	100.0%		むらのでいじめについて困っていない、対応することがないことが影響していると考えられる。
6	「むらの」は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している。	3	2	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	20	80.0%		むらのでは少人数の教育活動がほとんどのため行き届いた活動ができていることが理由と推測される。
7	「むらの」は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。	5	0	0	0	0	100.0%	0.0%	-	0	100.0%		
8	「むらの」の授業参観や学校行事に参加したことがある。	1	0	1	3	0	20.0%	80.0%	↓	-50.0	70.0%		保護者参観に参加する保護者が少ないことが影響していると考えられる。前期で言えば昨年より2名以上減っている。
9	「むらの」は、教育情報について提供の努力をしている。	3	1	0	1	0	80.0%	20.0%	-	0	80.0%		
10	「むらの」は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	2	2	0	1	0	80.0%	20.0%	-	0	80.0%		
11	「むらの」は、子どもの障害がいについて、よく理解している。	3	2	0	0	0	100.0%	0.0%	↑	100			[新設の質問] 本校が支援学校で少人数の教育活動を展開していることが理由と推測される。

- ・肯定率の高い順で表記
肯定…①あてはまる、②ややあてはまる
否定…③ややあてはまらない、④あてはまらない
- ・前年度比±10%以上の項目に矢印（↑）を表記
- ・参考として、前年度の肯定率を記載

【分析・考察について】

- ・以下の点を中心に分析・考察
- I 10ポイント以上の増減（肯定率）があった項目について
- II 肯定率が70%未満の項目について
- III その他

〈分析・考察〉

- I 増：項目4、6、11 減：項目2、5、8
- II 項目1、2、3、8
- III 全体として

・各項目についての分析は、上記「検証」に記述したとおりである。

・回答率が31%の統計をどのように解釈していくのかは、大変難しい。項目8が20%ということは、そもそも本校でのスクーリングの様子や取り組みを把握できていない保護者が8割近くいるということにもなる。

・共生生徒同様、共生保護者の自己診断実施の有効性や在り方について検討して行く必要があるのではないかと考えている。